

# カジノに頼らず大阪の魅力こそ

## 都市経済委員会で小川陽太議員



いて質問しました。

た。

都市経済委員会(9月20日)で小川陽太議員は、カジノを核とした統合型リゾート(IR)誘致と、大阪市立大学と府立大学の統合問題などにつ

吉村洋文市長は提案した補正予算案に、IRの事業設計や事業者公募のアドバイザー費用を計上。小川氏はマスコミ世論調査ではカジノ反対が多数で、国会でカジノ解禁の実施法案の審議も始まっていない中で、「2023年、24年のIR開業というスケジュールありきた」と批判しまし

た。カジノができればギャンブル依存症はいっそう深刻になり、なくすことはできないとし、「射幸心をあおって人を不幸にするのがカジノの本質。こんなものに地方自治体が税金を使っていいのか」と追及。市側が「IR収益の社会還元を通じて公益を実現する」と答えたのに対し、IRはカジノ

の隠れみのだと断じました。

さらに小川氏は、大阪には外国人観光客が増えていると指摘。その目的は食事や買い物、道頓堀や大阪城などへの訪問であり、「カジノに頼るのではなく、大阪の魅力を生かした観光客誘致に務めるべき。カジノに固執して一般市民の所得が吸い取られ、ギャンブル依存症を増やす。こんなことで大阪経済にプラスにならない」と力説。大阪を活性化する本筋は、大阪市民・府民の懐を温める施策こそ必要だと述べました。